

幼稚園の作品展の可能性の研究の為の現状調査

Current Situation Survey for a Study Researches a Possibility of the Exhibition of Children's Works in a Preschool

立崎 博則

Hironori TACHIZAKI

青森中央短期大学 幼児保育学科

Department of Infant Education, Aomori Chuo Junior College

Key words：制作過程、展示、コミュニケーション

1. 背景

1) 「上手だね。」「良くできたね。」という評価

「上手だね。」「良くできたね。」という褒め言葉は子どもたちの表現した作品の完成度を評価している。ダンスや楽器などの練習が必要な活動の中では「失敗しちゃったね、次は頑張ろうね。」という励ましの声かけも必要な保育の一部だろう。一方で表現活動の中で、子ども達の作品に対して「失敗しちゃったね、次は頑張ろうね。」という声かけはあまり聞かない。造形活動を見ても、子ども達が行った事のない新しい技法を教えるという活動の中にはあり得るかもしれないが、子ども達の作品が成功したのか失敗したのかを決める事ができるのは作者である子ども達だけなのではないだろうか。

幼児美術のねらいは作品を上手く作る事ではないのであれば、何を目的としているのだろうか。造形活動などの表現活動のねらいを再確認したい。幼稚園教育要領のねらい及び内容の章、表現の項目のねらいには、「1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。(文部科学省編『幼稚園教育要領解説』2008)」とあり、表現の為の技術が大きな目的となっていない事が言える。これは作品の完成度は幼稚園教育要領の中では、強くは求められていないと言う事になる。そして、代わりに「豊かな感性」や「自分なりの表現」、「様々な表現」が強調されている。「上手だね。」「良くできたね。」という声かけは子ども達の自信につながるだろうが、この3つのねらいの為には、完成度や技術の評価とは異なる評価が必要だろう。

2) 制作の過程を大切にする

絵を描く技術はその出来上がった子ども達の作品を見ると判断しやすいが、「豊かな感性を持つ事ができたか」や「自分なりの表現を楽しんでいるか」、「様々な表現を楽しんでいるか」を判断する材料は、完成作品からは読み取りにくい。このお花きれいだな。という感動や、力を込めてクレヨンを動かしたら勢いのある線が描けたぞ。という発見、お友達はクレヨンを力を入れずにやさしく持って描いていたな、真似してみよう。という関心や共感する気持ちは、制作の結果としての作品ではなく、制作の過程でこそ見る事のできる心の動きだろう。「お花きれいだね。」「勢いのある線が描けたね。」「〇〇ちゃんの絵もおもしろいよ。」という先生の共感言葉での表現が苦手な子を十分に励ます声かけになるだろう。

しかし、問題となるのは、感性の豊かさ、自分なりの表現や様々な表現を楽しんだか、をどのように評価しふりかえり、次の活動につなげていくのかという点である。ここで、この制作の過程＝プロセスを大切に活動であるイタリアのレッジョ・エミリア市発祥の幼児教育実践法、レッジョ・エミリア・アプローチの活動を参照したい。レッジョ・エミリア・アプローチでは、「教師は子どもたちの発話や行動をていねいに記録して、次に子どもたちが進んでいきそうな活動がある程度予測しながら、子どもたちの自主的な活動を支援していきます。そこでは、子どもたちの関心や疑問、発見を担当との対話や調査によって、認識を深めてゆくプロセスが大切される。(子どもの造形表現研究会編『保育者の為の基礎と応用 楽しい造形表現』2007)と説明される。レッジョ・エミリアの活動では、子ども達が関心や疑問を先生の力を借りて解決していくプロセス＝過程は、写真やビデオで撮影、また会話は録音され、先生が聞いた事や考えた事はメモとして、記録されている。これらの記録は最終的にまとめて展示される。先生によってまとめられ、制作の過程と作品が展示される事により、コミュニケーションが生まれ、子ども達の次の関心や疑問につながっていく。このレッジョ・エミリアの活動のように、制作の過程を記録し、「豊かな感性を持つ事ができたか」や「自分なりの表現を楽しんでいるか」、「様々な表現を楽しんでいるか」の判断が見える形として展示する事は、幼稚園教育要領のねらいの達成に向けての評価のヒントとなるだろう。

幼児造形の今日的課題として、子どもの活動の評価に関して、「近年、描いたりつくったりする過程を丁寧にみるようになってきている。造形活動の様子はもちろん、どんな心情を色や形として表現したのか、どのようなところで戸惑っているのか、といった内面的なものまで理解しようとしている。(辻泰秀『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』2014)」と説明されるように、先生は子ども達の制作の結果である絵からその意味を読み取るだけでなく、制作の過程から子ども達に寄り添い子ども達の内面である心の動きに触れ、共感し声かけなどのコミュニケーションをとる事が重要視されている。そして、本調査では普段の保育で伝えきれない共感を伝える、コミュニケーションの場として作品の展示を充実させる事を提案したい。

2. 目的と調査方法

1) 作品の展示の現状調査の目的

制作の過程の子ども達の感動や発見や関心などの心の動きを見つめ、それに対しての共感を子ども達に伝える事を目的とした作品展示が「上手だね。」「良くできたね。」という作品の完成度の評価の

他に必要な造形活動のふりかえりの場となるのではないか。というのが、本研究の提案であり、それに辿りどのような点を改善する事ができるのか、またそれに伴い起きると予想される問題点はあるのかを調べる為の「幼稚園の作品展の現状の調査」が本調査の目的である。

2) 調査方法

・作品展の分類

幼稚園の作品展の現状の調査にあたり、まず始めに幼稚園の作品展についてその規模により3つのカテゴリーに分類をした。1つ目は幼稚園の外で行われ多くの人が見る事の出来る、多数の園が合同で行う作品展（青森市私立幼稚園絵画展など）。2つ目は幼稚園の中で行われ多くの人が見る事の出来る、幼稚園個別の作品展（バザーや保育参観などと合同開催されるものを含む）。3つ目は幼稚園の中で行われその園の子ども達と先生、時には保護者が見る事ができる、日常の中で作られた子ども達の作品をクラスの壁に飾るクラスの展示。今回の調査では、より多くの人の目に留まり、先生方の働きにより改善しやすいと思われる、2つ目の「幼稚園個別の作品展（バザーや保育参観などと合同開催されるものを含む）」について調査を行う事にする。それは1つ目が多数の園での企画の為に改善に手順が多く必要だろうと言う点、また、3つ目は日々子ども達が作る作品に対してその全てに改善を行うとなると先生の負担が大きくなるという点を考慮し除外した。そして、2つ目の利点として、年間で1～2回の実施と予想され、記録を取る際などの適度なゴールとして無理のない期間があると考えた為である。

・質問項目

次に調査方法として質問用紙による調査を依頼する事にした。質問の項目として、①現状の作品展を準備する過程を調べる項目と、②博物館展示学による展示の評価方法を参考に幼稚園の作品展で考えられる項目を選んだ。①では展示の単位、クラス単位なのか異年齢児が混ざった全園児による合同の展示なのか、また、園児が制作した作品の分類、展示のテーマや配置の仕方、また先生が制作する制作物の割合やそれにかかる時間などである。②は吉富友恭（「博物館教育論～展示の活用とその効果～」『展示論 博物館の展示をつくる』2010）が説明する「展示評価の観点から展示を見る人がどのくらいその場所でとどまるか、何を学ぶか、それを気に入るか。（吉富友恭『展示論 博物館の展示をつくる』2010）」を参考とした。また、最後に③作品展で生まれるコミュニケーションに関する項目として、どのような会話が行われているのか。という3点を総合し20問の質問を制作した。

・対象

質問用紙を送付する園は、青森市内の幼稚園の中で、調査期間とする10月7日～11月31日の内に、作品展またはそれに準ずるものを実施する予定の14園（各園HPで確認）を対象とした。また、質問の回答者は対象となる幼稚園での作品展またはそれに準ずるものについての園内での実施者責任者として各園での選出をお願いした。これらについて回答データは全て統計的に処理し、園や個人が特定できない形で研究調査結果の発表を行う事を伝え、設定期間内の質問用紙と同意書の返送を持って調査協力への同意を判断させていただいた。また、倫理的配慮に関して、この調査は、青森中央短期大学研究活動推進委員会倫理審査会の承認を得て実施した。

3. 調査結果と考察

質問用紙による調査は平成27年11月27日に送付し12月18日までを期日として実施した。対象となる調査期間の内に、作品展またはそれに準ずるものを実施する予定の14園に質問用紙を送付し、回収率は10園（71%）となった。

1) 調査結果（作品展・作品展示の実施に関する項目）

表1と2「作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果Ⅰ」作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果Ⅱ」が質問用紙の問①～⑩までの回答結果である。作品展・作品展示の実施について作品展の形態や規模、また、子ども達が制作する作品やその配置と、先生が準備する部分についての質問になる。

まず始めに表1「作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果Ⅰ」をみていきたい。問い①の回答結果のみ、園を特定できる回答がある為、伏せたい。問い②の作品展の内容についての質問の結果をみると、作品展という行事であっても、作品展だけを実施している園と、他とのイベント（保育参観やバザー・出店、または季節の行事）と同時開催している園に分けられる。作品展と同時に行われているイベントを見ると、バザーや保育参観など保護者が参加しやすいイベントと同時開催する傾向にある事がわかる。問い③の作品展の規模についての質問では、およそ、全園児、全クラスが参加し、場所は展示の形態（保育参観など）によって変化する事がわかる。基本的に、全クラスが参加している。ここでは、展示の際の場所の問題をみる事ができる。eその他の答えて、廊下・天井も使用し展示が行われている事、また、場所の確保が難しい場合、特定のクラスの園児の作品を展示する事があるなど、場所との兼ね合いにより展示形態が変わる場合がある。問い④では子ども達が制作する作品に関して、また問い⑤では作品展のテーマについての質問をした。⑤から展示を行う際にテーマを設定する園が多い事と④から子ども達の作品は作品展に合わせてつくられる物と日常の保育で作られた作品を展示する作品がおおよそ同等である事がわかる。ただし、日常的に制作してきた作品を元にテーマを決める場合や、子ども達の成長を見せるというテーマを持つ作品展である可能性もある。問い⑥・作品の配置についての質問ではその大部分に先生が関わり子ども達の作品の配置が決まっている事がわかる。

次に表2「作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果Ⅱ」をみていきたい。問い⑦では展示方法に関しての工夫について聞いた。配置した作品の背景色やテーマに沿って周りの飾り付けを工夫しよりよく見えるようにするなどの展示装飾の工夫や子ども達の視線を意識した配置の工夫、また、作品を使って行う体験型の造形ワークショップを行うなどの展示工夫が行われているのがわかる。対して、問い⑧は作品展示を通して伝えたい事を聞いた質問では、子ども達の頑張りや成長、また個性など作品を通して子ども達についての事を伝えたいという意見が目立った。問い⑨と⑩はそれぞれ展示全体に対しての先生の制作物の占める割合と、それらの制作物を含めた準備時間の回答の平均値を見る事ができる。50%はなかなかいかなが相当の量の制作を、先生は用意している事とその為に相当の時間を制作時間として費やしている事が言える。

表1 「作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果Ⅰ」

	問い	選択肢	回答	その他の回答
①	作品展の名称について教えてください。（作品展、生活発表展、保育参観など、また「作品展&バザー」のような場合は、そのように記述してください。）			
②	作品展の内容について教えてください。（複数回答可）	a 子ども達の作品の展示のみ	4	
		b 作品の展示とバザー	3	
		c 保育参観と共に実施している	4	
		d その他	2	・ aの子ども達の展示と教職員による出店 ・ 作品展示と季節の行事
③	作品展の規模について、教えてください。（複数回答可）	a 全クラスが参加し、各クラスで展示を実施	5	
		b 全クラスが参加し、ホールなど広い場所で実施	5	
		c 年長児のみなど特定のクラスのみが参加し、各クラスで展示を実施	0	
		d 年長児のみなど特定のクラスのみが参加し、ホールなど広い場所で実施	1	
		e その他	4	廊下・天井も使用 ホールはフリーの職員が（テーマに沿った制作）飾り付けをし、飲食コーナーにする 全クラスが参加し学年ごとで展示 全クラスで参加し1部屋または廊下に展示
④	子ども達を作る作品はどのような決められますか。（複数回答可）	a 作品展に合わせて何をつくるか決める。	8	
		b 日常の保育の中で作られた物を展示する。	5	
		c 子ども達が自由に作った物を展示する。	0	
		d その他	3	作品展のテーマを決め、3～5歳共同制作 行事後とか日常の遊び体験学習などのあとで意図的に描かせる 毎年各学年でテーマを決めてつくります。
⑤	展示のテーマは決めますか、決めるとしたら、どのように決めるのか教えてください。（複数回答可）	a 決めていない。	0	
		b 先生が決める。	7	
		c 子ども達と先生が決める。	3	
		d その他	3	季節を考えて合ったもの 年間の活動の中から見つける 園全体のテーマは先生達が決め、その後、クラス毎に何を作るか、どのように展示するかを子ども達と先生で話し合いながら決める。
⑥	作品の展示方法について教えてください。子ども達の作品の配置は誰がしますか。（複数回答可）	a 先生が配置する。	6	
		b 子ども達が配置する。	2	
		c 子ども達の意見を聞き先生が配置する。	4	
		d その他	1	その時に応じて

表2 「作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果Ⅱ」

	問い	回答
⑦	作品の展示方法について、どのような工夫がありますか。（子ども達の目線に合わせて台を低くする。など）	・ 作品が映えるよう、バックの色を考えている。壁面などをプラスしてかわいらしく。 ・ 立体的な展示にするよう、作品の他に関係のあるものを飾りつける（ぬいぐるみ） ・ 立体的にレイアウトを心がける。学級ごとに配置を考えている ・ 絵画はスペースが限られる、制作したものについては台（机）などに置いてのせるなど ・ 1人1人の作品が良く見えるように置く（高低差をつける） ・ 子ども作品が見栄えするように、又、子ども達の目線に合わせて飾る ・ その物語の風景を再現するようにしている。綺麗な色を使う様にしている。 ・ テーマに合わせた展示、見えやすく工夫する ・ 園全体での共通のテーマのもと、遊戯室に展示する為、他クラスとの連携や作品のつながりなどを考慮した配置にする事 ・ 毎年ではないのですが、体験（＝遊べる）型。例えば…畑から作品のだいこんを抜く→親子で喜ぶ→持ち帰る
⑧	作品展示を通してどのような事を伝えたいですか。	・ 子ども達の頑張り。季節感。学年に合った活動 ・ 個々一人一人の成長や年齢的な成長の差異など ・ 個々の出来栄に終わらず、年齢に応じてとか他との比較にこだわらない ・ 子ども達の成長を見てほしい。 ・ 一人ひとりの個性 ・ 各年齢の姿、子どもの成長、その年齢のそれぞれの姿 ・ 子ども達の身体面と精神面の成長を実感して欲しい ・ 作品の作り方など過程を予想できるように ・ 自分のお子さんの作品ばかりではなく、友達や他の学年のをみたり、とり上げることによって、互いに意識し合える関係がきづければと思う ・ テーマと作品作りの経過（写真、説明文）
⑨	子ども達の作品以外に先生方が制作する物は全体のどの程度の割合ですか。	平均30%（最低値10%、最高値50%） その他の回答として、年齢やその時の活動内容によって変わるという意見があった。
⑩	子ども達の作品以外に先生方が制作する物にかかる制作時間を教えてください。	平均12時間（最低値1時間、最高値40時間） その他の回答として、相当の時間、持ち帰って作っている。 学年によって、その活動によって異なる。という意見があった。

2) 考察（作品展・作品展示の実施に関する項目）

作品展・作品展示の実施に関する項目の集計結果をまとめたい。

まず始めに、作品展の規模について、ほぼすべての園で全園児が参加する展示になり、展示の場所の確保も問題になる場合がある事がわかる。次に、作品展実施に向けて、先生の準備の負担が問題としてあげられる。相当な時間、作品展の装飾などの制作時間に当てられている。その工夫は、ほとんどの回答で展示の見た目の完成度を上げる為の展示装飾の工夫や配置の工夫についてであった。しかし、問い⑧の作品展示を通して伝えたい事をみると、「子ども達のがんばり」、「一人一人の個性」、「作品の作り方などの過程」、「テーマと作品作りの経過」など、作品の完成度からだけでは想像しにくい項目が作品展示を通して伝えたい事として半数以上の回答にあげられている。このことから、作品展示を通して伝えたい事である子ども達のがんばりや個性、また制作の過程を伝える為の工夫は行われていない、または工夫の仕方がわからないと予想をされる。

3) 調査結果（コミュニケーションに関する項目）

次にコミュニケーションに関する項目の集計結果をみていきたい。ここでは、作品展見に来た人が展示の前で作品を見る時間と作品展に参加した人の間で交わされる会話の代表的な物を質問した。

表3「コミュニケーションに関する項目の集計結果」をみると、作品の前で留まる時間がわかる。突出してどの程度の時間、留まっているのかという事はできないが、展示の前で子どもが保護者に作品の説明をする時間がそのまま留まる時間となると言えるのではないだろうか。

問い⑫からは、作品展での子どもと保護者と先生の間で交わされるコミュニケーションについてそれぞれ代表的な会話を回答してもらった。問い⑫子どもと保護者の間では、「上手だね。」「すごいね。」という褒める言葉によって子ども達は満足感を得る事ができているように予想される。また、問い⑬の子どもと先生の間では、子ども達は制作でのがんばりを認めてもらい、また次の目標を得る事が出来ているように予想される。最後に問い⑭の保護者と先生の間では、子ども達のがんばりや苦労が先生から保護者に伝えられ、制作過程での細かな状況も報告され保護者は子ども達の成長を感じる事が出来ているのではないかと予想される。

表3 「コミュニケーションに関する項目の集計結果」

	問い	選択肢	回答	その他の回答
⑪	作品展を見に来る保護者は、展示の前でどの程度の時間作品を見ていますか。	a 0～5分	3	
		b 5～10分	3	
		c 10分以上	3	
		d その他	2	園児と共に、園児が説明する（作り方、苦労） じっくり見て下さる方もいれば、自分の子の作品のみ、さっとみる方もいる
	問い	回答		
⑫	展示を通して子ども達と保護者はどのような会話をしますか。代表的な物を教えてください。	・上手にできたね。かわいいね。頑張ったね。○○ちゃんの見つけたよ！など ・食べ物だったら→おいしそうですね。 物体だったら→よくできてるでしょう。 ・○○を頑張ってつくってましたよ。 ・上手にできているね、すてきだね、すごいアイデアだ ・何を作ったの？どこを作ったの？とっても上手にできたね。頑張って作ってるね。すごいね。 ・子どもは自慢げに、保護者はうなづいている。 ・何を作ったの？どこを作ったの？とっても上手にできたね。頑張って作ってるね。すごいね。 ・保護者「ここどうやって作ったの？」子ども「トイレットペーパーにおはな紙巻いたのー」 ・保護者「すごい！くまさん作ったの？上手になったね」子ども「ニヤニヤ」 →ほめている事が多い ・作品をどのようにして作ったのかの過程 親「これはどうして作ったの？」 子「牛乳パックに折り紙を貼ったの」など ・上手にできたね、すごいね、どうやって作ったの？ ・何をどうやってつくったか、また誰と一緒に作ったかなど子どもが保護者に話、「上手だね」と褒めてもらう ・作品作りの過程、苦労した所		
⑬	展示を通して子ども達と先生はどのような会話をしますか。代表的な物を教えてください。	・みんな頑張ったから、かわいく飾れたよ。次に作る時はこういう所を工夫してみようか。など ・どこが難しかった？ こんな色してたんだ ○○ちゃんの方が大きいね。 ※その子の発見や気づきに繋がる声がけ ・○○で苦労したよね、良い感じが表現されているね、ていねいだね、アイデアよかったね ・どこが難しかった？簡単にできた？どんなところが好き？一番頑張ったのはどんなところかな？みんなの力を合わせて（一人一人が頑張ったから）とても素敵なのが出来たよね ・子どもの思いを受け止めるようにやさしく聞く ・どこ工夫したの？など聞いて、子どもの発想力をたくさん褒め、自信に繋がる様にしている。 ・先生「今日は水族館の絵を書きますよ、○○くんは水族館にいったことある？どんなお魚がいたかな？」 子ども「大きな魚とか、クジラもいた！」など 意欲的に取り組めるように ・良さを見つけ伝える、共感し合う、頑張った点を褒める ・がんばった事を認め、子どもが達成感を感じられるように言葉をかける。また、保護者にもみてもらうことへの期待感をみてるようにする ・完成度を褒める、色がたくさんあっていいね		
⑭	展示を通して保護者と先生はどのような会話をしますか。代表的な物を教えてください。	・○○ちゃん一人でここを考えて作ったんですよ。○○ちゃんこんな工夫して作ってましたよ。作っていた時の子どもの様子についてなど ・作っていく過程、又、できた時の表情などをまじえながら話をしたい所である。 ・昨年に比べ、成長が感じられてうれしい ・1人1人、その子の取り組んでいる様子、エピソードや前年度からの成長の過程や活動を通しての友達とのかかわりなど ・子どもが頑張った事を伝える。 ・子どもが作っている時の様子を教えたりする。「すごく悩んで工夫して、こうになりました。」「すごく上手でお手本になっていましたよ！」 ・作品をつくって来た過程で喜んで取り組んでいた事や頑張った所を教えてあげる ・個の姿を伝える、頑張っていた所、力をいれていた所 ・制作過程の様子や友達とのかかわり、クラスの様子などを伝えながら、子ども達一人一人の成長を感じてもらう ・良くできていますね、大変だったでしょう		

4) 考察（コミュニケーションに関する項目）

コミュニケーションに関する項目の集計結果のまとめとして、作品展は子ども達にとって運動会やおゆうぎ会と同様に普段の造形活動の成果を発表する場として機能し褒めてもらい満足感と次の制作へのモチベーションを得る事ができる行事になっているだろう。そして、注目したい点は、保護者と先生の会話では、作品展自体では見えない、問い⑧の作品展で伝えたい事で回答されている制作の過程や子ども達の成長について先生から詳しく保護者に伝えられているという事がわかる。しかし、全ての保護者に対してこの先生からの報告が行われているとは言い難い。ただ、作品展示で工夫しきれなかった作品展で伝えたい事が会話という形で達成される場があるという事がわかる。

5) 調査結果（現状の作品展についての問題の考察の為の項目）

最後に現状の作品展についての問題の考察の為の項目についてみていきたい。ここでは、子ども、保護者、先生、それぞれの立場での作品展の現状の満足度を先生の見線から計ってもらっている。表4「現状の作品展についての問題の考察の為の項目の集計結果」をみていきたい。問い⑮と⑯の子ども達の満足度の結果はおよその園児が満足しているように見えるという結果になっている。自分達の作品が展示されそれをみる事で感動しているという意見が多い。b楽しみ方がわからない。とC不満がある。の選択肢は、展示直後にはその展示に注目するが数日経つと興味がなくなるという感動の持続と、造形活動に対して集中できない子どもの話があげられている。問い⑰と⑱は保護者の参加度についての質問である。作品展が開催されるとおよその保護者は作品展を見に来るという意見が多い半面、自分の子どもの作品だけをみるだけにとどまるという保護者もまた一定数いるという事がわかる。またバザーなどの他のイベントとの合同開催であれば、より参加しやすいという結果がみてとれる。問い⑲と⑳は先生の満足度ついて聞いた。現状で達成できる範囲で満足をしているが、準備期間の負担などが大きい事があげられている。また子ども達と保護者に対しての項目と比べてa理想的にできている。という満足度が一番低い事がみえる。

表4 「現状の作品展についての問題の考察の為の項目の集計結果」

	問い	選択肢	合計
⑮	子ども達は作品展に満足していると思いますか。	a すごく楽しんでいる。	9
		b 楽しみ方が分からない。	1
		c 不満がある。	1
	問い	回答	
⑯	何故そう思うか教えてください。	・飾ると次の日にはすぐ「わー、かわってる！」と気付き、嬉しそうに自分の作品をさがしている。 ・展示されている作品を親子で観賞することで、子ども達は満足し、その時間を楽しんでいる様子がうかがわれた ・表現、作品の感性に感動の表情 ・作る過程の表情や活動の中で「面白い」「できたよ！！」という言葉が聞かれること。作品展後数日間は作ったものを利用して全園児で楽しむ時間を設けていること ・最初は飛びついて観賞するが1日～2日位 ・何作るの？と聞いてきたりする ・どのお友達もいきいきと作品作りを楽しんでいる ・出来上がった作品を見て、達成感・満足感を味わっている。 ・完成作品を頭に描きながら制作を楽しむ半面、中には興味が持続しない子どももいるため ・喜んでいる、目をキラキラ、帆の人の作品に感動	
	問い	選択肢	合計
⑰	保護者は作品展に積極的ですか	a 積極的に参加している。	7
		b 身には来ているが、参加の仕方が分からない。	3
		c 消極的だと思う。	1
	問い	回答	
⑱	何故そう思うか教えてください。	・参加するような場面はない。 ・自分の子どもの作品を見に来るのが主だが、それだけではひよっとしたら物たりなさを感じているのかもしれない。 ・子どもと一緒に見て回り、説明してくれてうれしい（アンケートなどに書かれている） ・子どもと一緒に何度もいろいろな教室やホールに出かけ、大きな作品の中に入ってみたり、ホールでの催し物を楽しんでいる保護者が多い ・自分の子どもの作品のみに終わっている。 ・展示場所が幼稚園でないから参加人数が少ない。 ・バザーも一緒に行う事で家族全員で園に来て楽しんでいる様子が伝わる ・作品展示を楽しみにしている ・ほぼ全園児の保護者の参加があるため ・作品の細かいところをほめてくれる	
	問い	選択肢	合計
⑲	先生方は作品展をどう思っていますか。	a 理想通りに出来ている。	6
		b 改善したいがどう改善していいかわからない。	3
		c 大変だ、負担を感じている。	2
	問い	回答	
⑳	何故そう思うか教えてください。	・飾りながら一人一人の作品をじっくり見て成長を感じられる。作品展示も仕事のひとつなので楽しんで行う事ができる。 ・準備や活動期間を十分に確保できた上で、子どもや教師が満足のいく取り組みをしたいが、行事もおおくなり実際問題じっくりと時間をとれないでいる。 ・その間、忙しいけど生き生きしている。事前に作品展にアイデアとつとめている。※負担に感じていることも事実 ・制作に向かう全段階（準備）や園児の完成への重いを達成させてあげる為の手助け（時には補強や修正が必要）に時間をとられることが多い。 ・年間の計画に従って保育できている ・前年度以前より展示が小規模になったことにより、保育者や子どもへの負担が減り楽しく展示が出来るようになった ・夏休みから案を立て何度も職員で話し合いマンネリ化しないように工夫している ・色々な作品展示方法があるため研究が必要だと思う。 ・行事の持ち方や子ども達の表現活動には満足しているが、実際事前準備に時間がかかり大変である事は事実 ・時間が保育終了後の作業になる	

6) 考察（現状の作品展についての問題の考察の為の項目）

現状の作品展についての問題の考察の為の項目の集計結果についてまとめたい。子どもたちは、制作と作品には興味があるが作品を展示する事のうれしさや楽しさまでを日々の造形あそびの中で伝える事ができれば、より展示に関心を持てるのではないだろうか。また、保護者は、自分の子どもの作品以外にも興味を持ちやすい展示、子どもたちの成長を見せたり、制作の過程がみえる展示方法の模索が必要と言える。しかし、最後に先生の立場でみると、作品展の改善をする際に、準備段階の負担を考え可能な範囲からの改善案の提案が不可欠になってくるといえる。

今後の課題

「上手だね。」「よくできたね。」という子どもたちの作品の完成度や技術面を評価する声かけのほかに、幼稚園教育要領にある「豊かな感性」や「自分なりの表現」、「様々な表現」を育む為の声かけや評価の場が必要だ。その為には、制作の過程の段階で共感する事が大切にされる活動が注目されている。レッジョ・エミリア・アプローチでは、制作の過程から子ども達に寄り添い子ども達の内面である心の動きに触れ、共感し声かけなどのコミュニケーションをとる事が重要視されている。そして、それらを記録に残し展示する事によってさらなるコミュニケーションの場となり、感性や表現を育む場として機能している。本研究の目的は、普段の保育で伝えきれない共感を伝える、コミュニケーションの場として作品の展示を充実させる事を提案する事であり、本調査はその前段階であり、現状の幼稚園で行われている作品展を調査し改善点や問題点を探ることである。青森市の幼稚園の中で調査期間に作品展を実施している幼稚園に質問用紙で調査を依頼した。調査の結果、多くの作品展ではテーマが設定され、子ども達の作品がよりよく見えるような配置や装飾の工夫がなされている。その一方で、「子ども達のがんばり」、「一人一人の個性」、「作品の作り方などの過程」、「テーマと作品作りの経過」などの作品を見ただけでは想像しにくい事が作品展を通して伝えたい事としてあげられたが、展示方法としてそれに向けて工夫をしている園は少なかった。その代わり、展示を見に来た保護者と先生の会話の多くで制作の過程の出来事を伝えているという回答が多く、この点を見ると先生の伝えたい事だけではなく、保護者が展示に期待する事としても制作の過程の出来事が挙げられるだろう。また、子どもたちに関しては、展示の楽しさを日々の造形あそびの中で伝える事が課題と言える。これらの事から、子どもたちの作っている時の表情が見える展示豊富が一つの目指すべき展示であると提案したい。しかし、展示場所や準備の為の先生の負担も考慮し改善案を探っていく事が今後の課題といえる。

参考文献

- 1) 文部科学省編「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、2008
- 2) 子どもの造形表現研究会編『保育者の為の基礎と応用 楽しい造形表現』圭文社、2007
- 3) 辻泰秀「幼児造形の今日的課題」『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』萌文書林、2014
- 4) 吉富友恭「博物館教育論～展示の活用とその効果～」『展示論 博物館の展示をつくる』雄山閣、2010